

～スマートフォンなどの 5G 対応モバイル製品の出荷台数と、フロントエンドモジュールや Filter などの 5G 用高周波部品・モジュールの市場規模を 2027 年まで予測した調査結果の概要～

スマートフォン等の無線通信機器用高周波部品の市場調査を行う（有）ナビアンでは、5G 対応製品や高周波部品・モジュールの市場規模を 2027 年まで予測した調査レポート “RF Devices / Modules For Cellular for 5G & 5G/NB-IOT” を発刊した。

（レポートの目次等→<https://www.navian.co.jp/japanese/rf-market-report/5g-report/>）

本レポートでは、スマートフォンやフィーチャーフォンといった携帯電話に加えて、タブレットやノートパソコン、自動車などセルラー機能を搭載する機器全てを対象としている。

また、本レポートでは 5G の高速大容量通信や超低遅延といった特徴を生かした新しいコンセプトのモバイル製品 “NEW Product X” の登場を想定した。

更に、本レポートでは NB-IOT やその 5G 版 IOT といったセルラー LPWA も調査対象としている。

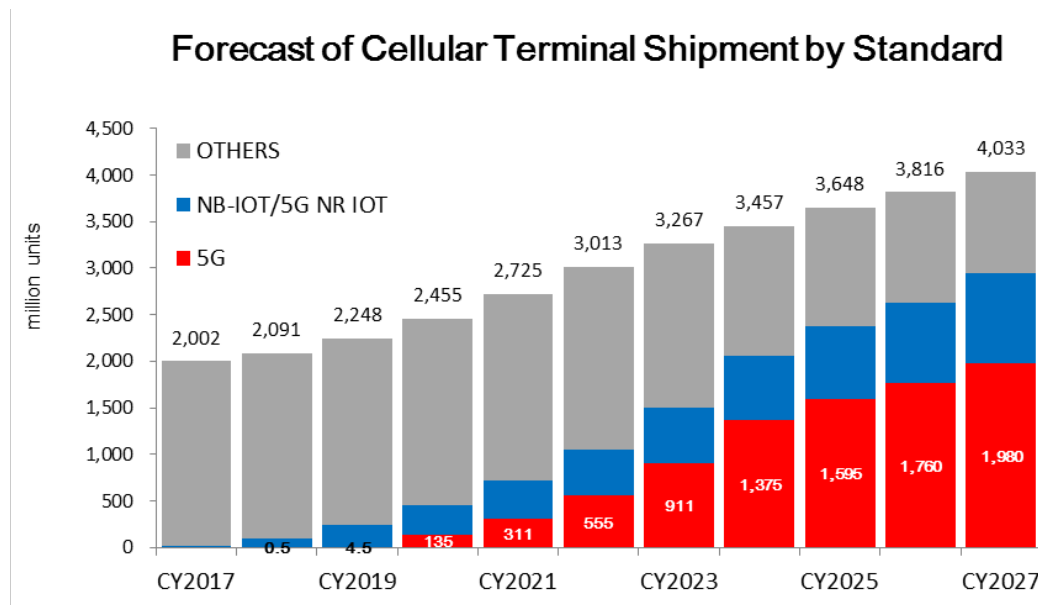
●2027 年における 5G に対応する製品の出荷規模は、19 億 8,000 万台に

2027 年におけるこれらセルラー対応製品の総出荷規模は 40 億 3,200 万台で、このうち 5G に対応する製品の出荷規模は 19 億 8,000 万台と予測した。

主な内訳は、スマートフォンが 12 億台、“NEW Product X” が 4 億台、ノートパソコン・タブレット PC が 2 億 8 千万台、その他 1 億台となる。

5G に対応したスマートフォンは、2019 年から製品化される見通しだが、本格的な普及期は 5G 版の iPhone が登場すると予想される 2020 年後半からとなりそうだ。

また、利用周波数帯別では、3.5GHz 帯や 4.5GHz 帯といった Sub 6GHz 帯が 15 億 5,000 万台と大半を占める。28GHz 帯や 39GHz 帯といったミリ波は、サービスエリアや搭載機器が限定的となり 3 億 4,000 万台に止まると予測した。また 3GHz 帯以下が 9,000 万台と予測した。



●**5G**用のフロントエンドモジュール・高周波部品の市場規模は、1兆4,277億円に
5G用のフロントエンドモジュール・高周波部品の市場規模(RF Market)は、2027年に1兆4,277億円に拡大すると予測した。

ミリ波用のアンテナモジュールやSub 6GHz用のPAMiF(PA in Filter)といったフロントエンドモジュールが市場拡大の牽引役となる。

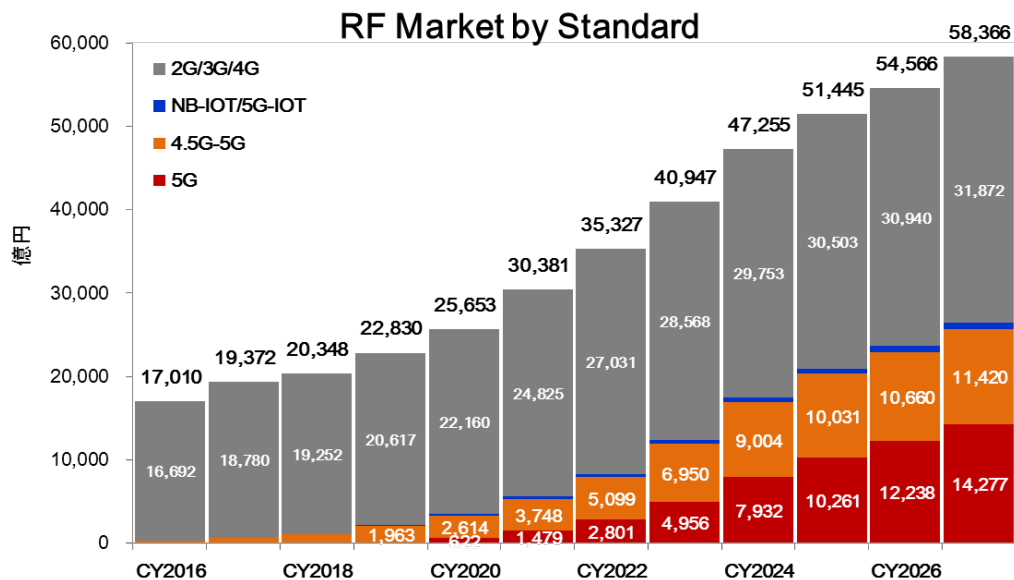
高周波部品では、Sub 6GHz用として、LTCC(低温同時焼成セラミックス)やIPD(Integrated Passive Device)といった技術を使用したFilterの市場が顕在化する。

また、4Gの後期(LTE-Advanced)で実用化された4x4 MIMOやアップリンク キャリアアグリゲーションといった新機能向けのフロントエンドモジュールやSAW FilterやBAW Filterの需要拡大が5Gの普及に伴って本格化する。

本レポートでは、こうした需要分を”4.5G-5G”向けとして分類、2027年に1兆1,420億円となると予測した。

また、既存のフロントエンドモジュール・高周波部品の市場も、セルラー端末の出荷規模拡大や一台あたりのバンド数の増加などによって拡大する。

2027年におけるフロントエンドモジュール・高周波部品の総市場規模は、2018年の3倍近くとなる5兆8,366億円に成長すると予測した。



■本件に関する問い合わせ先

有限会社ナビアン

担当者: 安藤 嘉泰(あんど う よしやす)

電 話: 03-5303-1303

メール: andoh@navian.co.jp